



平成31年産（30年播種）



麦類の生育概況 vol.4

埼玉県マスコット
「コバトン」

（平成31年3月1日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要約

◎気象概況：2月の気温は高く、降水量は平年並み、日照時間は少なかった。

◎生育状況：生育量は平年並み、生育進度はやや早い。

◎今後取るべき技術対策

- ・追肥：麦種、品種と生育に合わせた追肥を実施する。「さとのそら」は必ず実施する。
- ・排水対策：排水機能を保つよう明渠と排水溝の点検補修を行う。
- ・雑草防除：雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さないよう防除を行う。
- ・病害虫防除：麦の生育に合わせた赤かび病防除計画をたて、適期に防除を行う。

1 気象の概況

2月の平均気温は第2、3半旬を除いて平年より高く、月平均では1.3℃高かった。降水量は第4、6半旬にまとまった降雨があり、月合計では平年比76%であった。日照時間は第2、6半旬で平年より少なかった。月合計では平年比95%であった。

2 生育の概況

（1）センター内生育相（11月12日播種）

ア 小麦（さとのそら）

少雨の影響を受け、平年よりも草丈は低く、莖数は少なく推移しているが、過繁茂が抑制され、生育は順調である。2月中下旬の高温により、葉位の進展は早くなっている。

高温に推移したため、秋播性がIVである「さとのそら」は、幼穂分化開始に必要な低温経過期間を長く要し、分化の開始時期は平年よりやや遅れた。しかし、その後の発達はやや早まり、現時点でほぼ平年並みである。

莖立期はほぼ平年並み、出穂期は平年並みからわずかに早い見込みである。

イ 大麦（彩の星）

少雨の影響を受け、平年よりも草丈は低く、莖数は少なく推移しているが、過繁茂が抑制され、生育は順調である。2月中下旬の高温により、葉位の進展は早くなっている。

高温に推移したため、秋播性がI~IIである「彩の星」は、幼穂の発達が早まった。3月1日現在で幼穂長は平年比171%とかなり大きくなっている。

莖立期は2月22日と平年より10日早かった。出穂期も3月20日頃とかなり早まる予想である。

(2) 県内全般

低温と乾燥により停滞していた生育は、2月下旬の降雨と気温の上昇に伴い莖数の増加、葉位の進展ともに速度を増しており、適期播種の小麦は平年よりも2、3日程度進んでいる。

11月上・中旬播種のビール麦はすでに莖立期を迎えており、葉の黄化が目立ち、有効穂数がやや少ない傾向にある。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

気象庁が2月28日に発表した1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない見込みである。平均気温は高い確率70%、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は少ない確率50%である。

また、2月25日発表の3か月予想では、4月の天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少なく、気温は高い確率が50%、降水量は平年並または多い確率ともに40%である。5月の天気は数日の周期で変わり、気温は高い確率が40%、降水量は平年並の確率が40%である。

(2) 生育予測

今後も気温は高く、降水量も平年並みから多く推移すると予想されることから、小麦、大麦ともに生育は促進され、莖立期の前進化や生育後半の凋落が想定される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 追肥

「さとのそら」は、出穂2週間前に窒素成分3~4kg/10aを目安に施用する。機械散布で莖立ち後の散布が困難な場合は、莖立直前に同3~4kg/10aを散布する。

(2) 排水作業

莖立期以降のまとまった降雨は、根の機能を低下させ湿害を助長する。麦踏み等で明きょが埋もれていないか、外部の排水路としっかり連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

(3) 雑草防除

莖立期を過ぎると使用できる除草剤に限られるため、早めに雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さないよう防除を行う。

特に、カラスノエンドウ、カラスムギなど、収穫物に混入する恐れのある雑草は確実な除草を行う。

(4) 病害虫防除

赤かび病の防除は必ず実施する。防除適期は下表を目安にする。

平年の出穂は、11月播きの小麦が4月中旬、大麦は3月末～4月上旬、12月播きはこれより数日～10日程度遅くなる。今後の気象推移に留意して防除計画を立てる。

特に、ビール麦の登熟は、近年急激な高温による登熟期間の短縮が懸念される。薬剤によっては収穫前日数の長い薬剤があるので、十分に注意する。

※赤かび病防除の目安

小麦	<ul style="list-style-type: none">出穂から7～10日後を目安に開花初めを確認し、直ちに薬剤を散布。その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。
ビール麦 (二条大麦)	<ul style="list-style-type: none">穂揃期の10日後に薬剤散布。
六条大麦	<ul style="list-style-type: none">穂揃期に薬剤を必ず散布。その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。

解析・考察に用いた具体的数字

1 2月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	6.4	4.0	13.1	9.5	0.8	-0.7	0.0	5.1	40.2	36.0
2	4.3	4.4	8.5	9.9	0.6	-0.4	0.0	4.5	22.5	35.3
3	3.3	4.7	8.4	10.3	-1.4	-0.1	0.0	6.0	33.6	34.1
4	7.3	4.9	14.6	10.4	0.9	0.2	6.0	8.1	37.5	33.2
5	8.5	5.3	15.2	10.6	2.9	0.6	0.0	8.5	42.6	32.4
6	7.7	5.7	10.7	11.1	4.5	1.0	22.5	5.1	4.3	19.2
平均	6.1	4.8	11.8	10.3	1.2	0.1	合計 28.5	37.3	180.7	190.2

注. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値

2 生育状況

品 種 名	調査日	草 丈		茎 数		葉 位		風乾重		風乾歩合	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (L)	平年差	本年 (g/100本)	平年比 (%)	本年 (%)	平年差
さとのそら	2月11日	11.3	84	9.1	112	6.7	0.3	36.1	77	27.0	4.9
	2月21日	12.1	79	9.7	99	7.6	0.6	48.5	79	23.2	4.3
	3月1日	13.6	74	8.9	81	8.7	0.9	49.5	54	19.9	0.9
彩の星	2月11日	16.0	88	10.1	83	6.8	0.1	69.2	76	21.0	5.9
	2月21日	19.6	95	10.0	74	7.8	0.6	97.8	80	19.5	4.5
	3月1日	22.9	90	10.0	68	9.0	1.1	135.0	74	17.7	2.2

注1. さとのそら平年値は、過去5年間の平均値。彩の星平年値は過去7年間の平均値。以下同様。

注2. 風乾重は、100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。

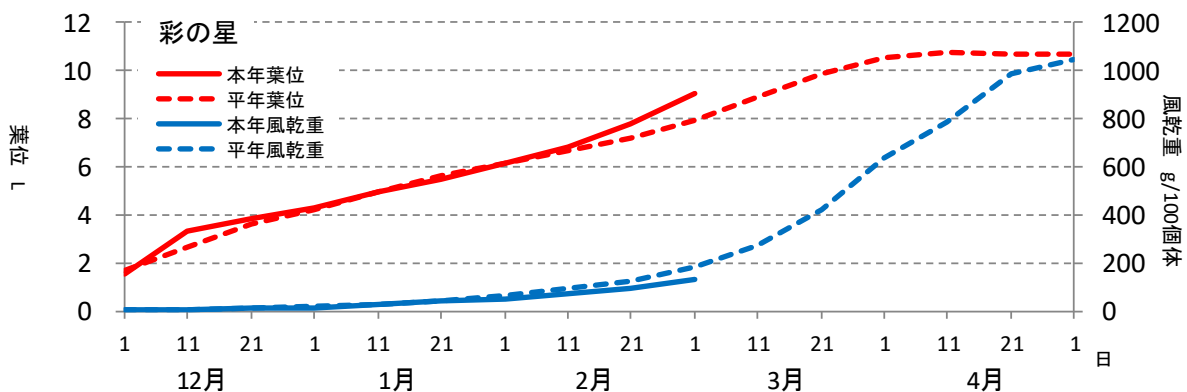
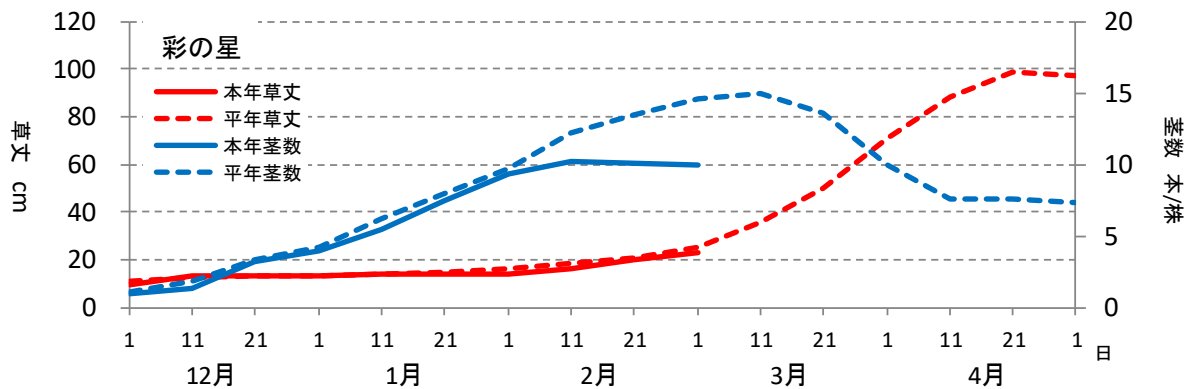
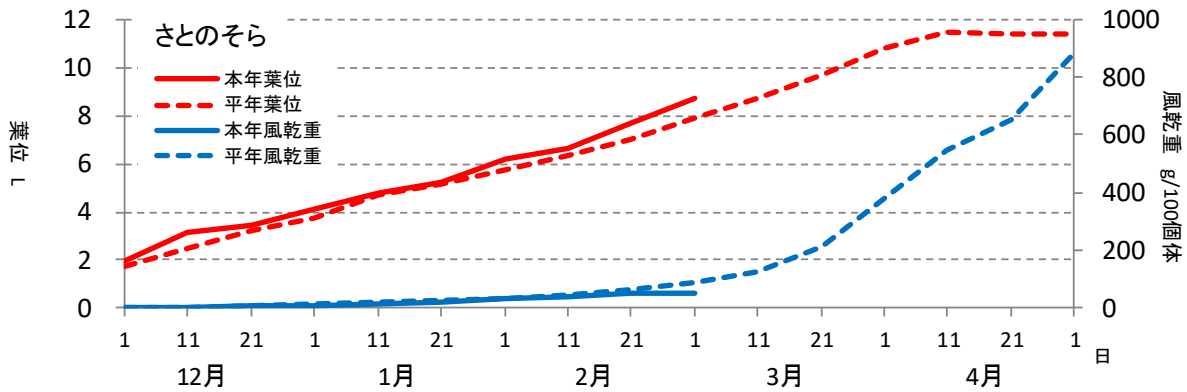
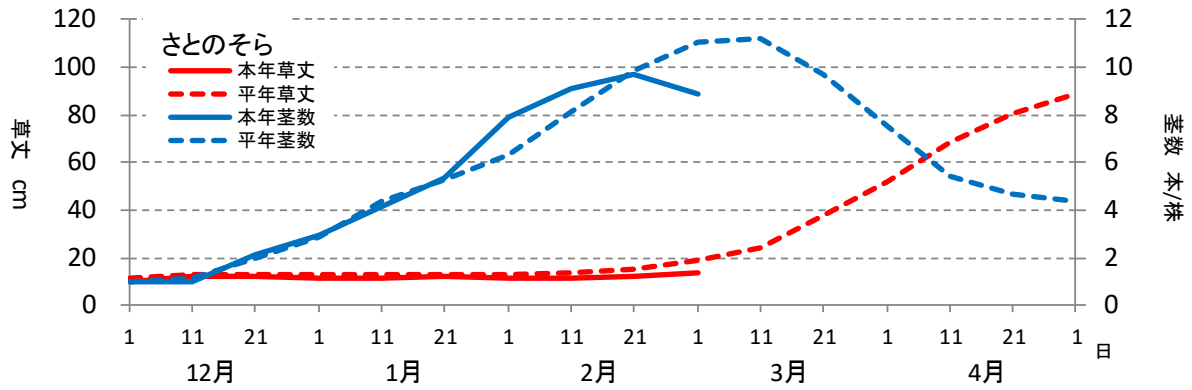
3 幼穂分化

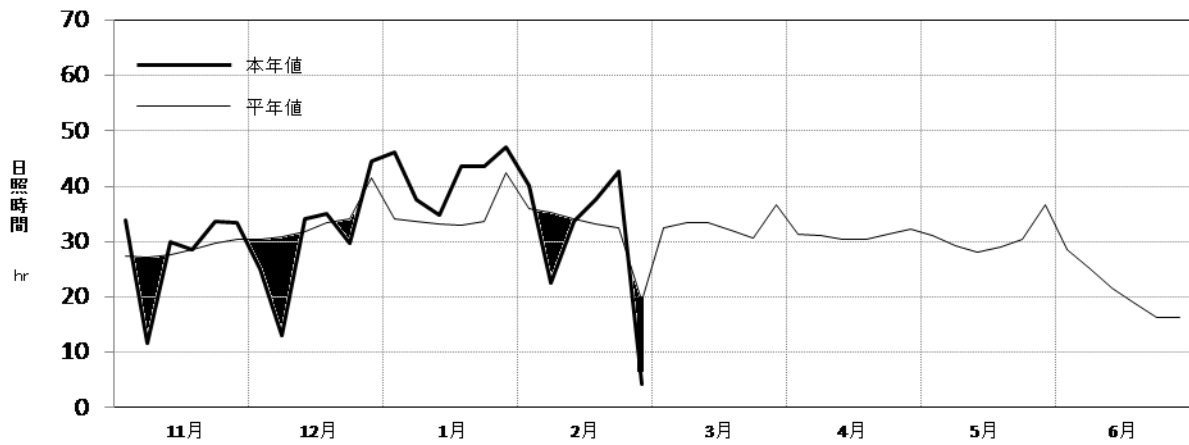
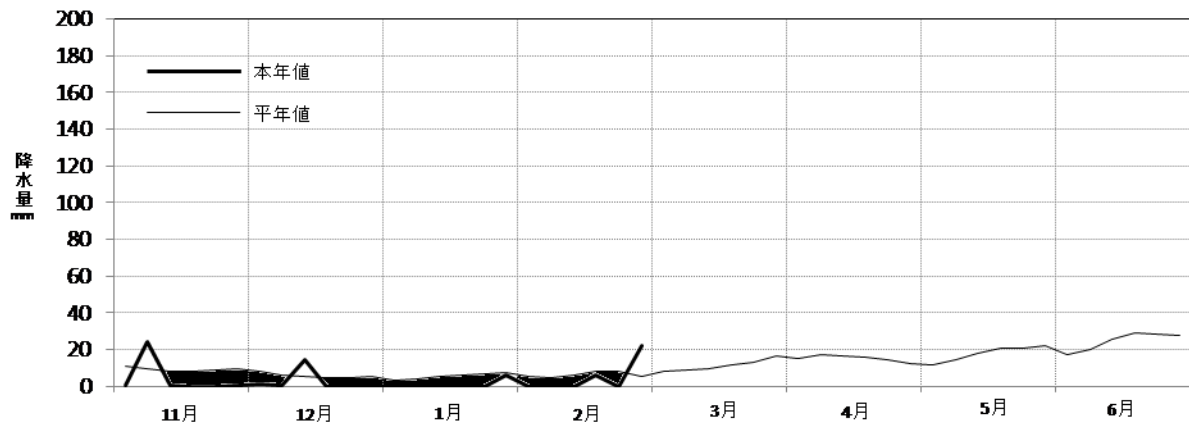
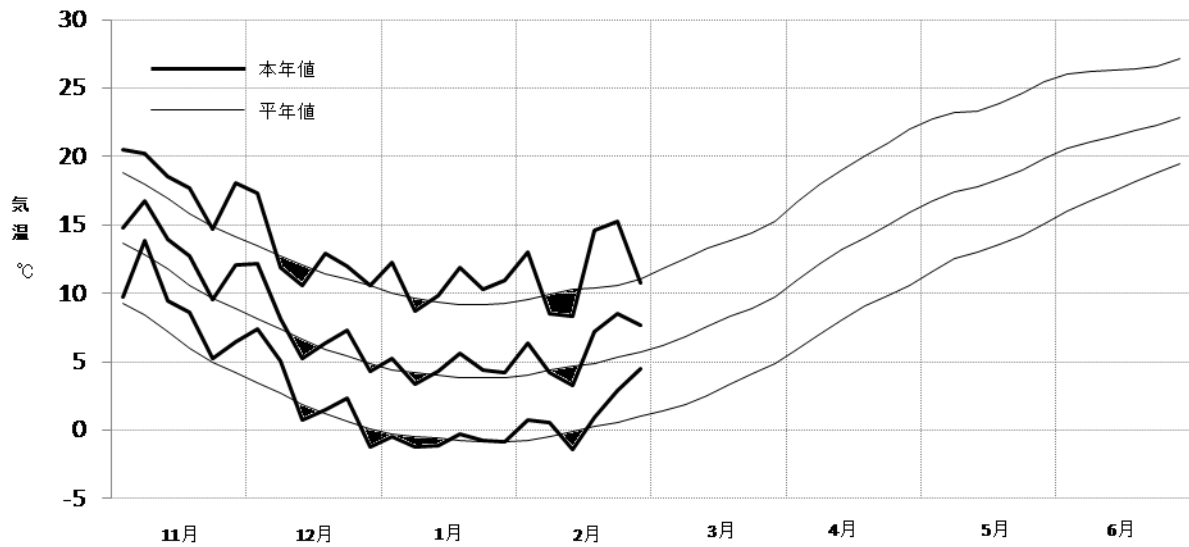
品 種	月 日	稈長			幼穂長			幼穂分化ステージ	
		本年 (mm)	平年 (mm)	平年比 (%)	本年 (mm)	平年 (mm)	平年比 (%)	本年	平年
さとのそら	2月11日	3.4	2.3	148	0.3	0.5	59	~V	VI~VII前
	2月21日	3.8	3.5	109	1.0	0.9	114	VI~VII前	VII前~VII後
	3月1日	5.2	5.7	92	1.5	1.5	99	IX前	VII~IX前
彩の星	2月11日	5.7	5.1	112	3.2	2.7	118	IX中	VIII~IX前
	2月21日	16.6	10.8	154	6.3	3.8	165	X	IX中
	3月1日	38.8	28.3	137	12.2	7.2	171	X	IX後~X

(参考) 茎立期・出穂期の平年値

品 種	茎立期	出穂期
さとのそら	3月14日	4月13日
彩の星	3月4日	4月1日

4 生育経過





平成30年冬作期間気象図
(熊谷地方気象台測定値)